

事業名：広島県「ことばの教育」パイロット校事業

学校名：府中市立広谷小学校

所在地：府中市鞆町97-3

HP:

<http://www.edu.fuchu.hiroshima.jp/hirotani-hou>

掲載：14学級 333名

## 1 研究の概要

### (1) 研究テーマ及び研究のねらい

#### ①研究テーマ

論理的思考力、表現力の育成

～「ことばの時間」に身に付けた言語技術と「書く活動」を授業に活かして～

#### ②研究のねらい

昨年度、「言語技術」を授業に活かし思考を深める取組みを行ってきた。その結果、児童は「結論先行で理由をつけて説明すること、ナンバリングを使って考えを整理することなどができるようになった。また、教師は、曖昧な答えに対して、明確な根拠を求める切り返しを意識して指導するようになった。しかし、適切な根拠をもとに相手に分かりやすく説明するといった論理的思考力・表現力の育ちが十分ではなかった。そこで、本年度は、昨年度以上に「言語技術」を授業の中で活かしたり、「書く活動」を工夫したりして、論理的思考力・表現力の育成に取り組むことにした。

### (2) 研究組織・体制

①4者（校長・教頭・教務主任・研究主任）によるミーティング（週1回・2時間）を行い、進捗状況管理、今後の進め方、見直しなどを行う。

②教育研究推進部に「ことばの教育」部門を設け、企画運営をする。

### (3) 研究内容

①特設「ことばの時間」（全学年・週1回）の取組み

○教科・領域と関連したカリキュラムの作成

○「話す力・聞き取る力」を育てる工夫

○定期的な児童の意識及実態調査

○通信・懇談会等における保護者啓発

②授業の中で考えを深めたりまとめたりするための「言語技術」を活かす工夫

③自分の考えを「持つ・整理する・深める」ための「書く活動」の工夫

## 2 授業改善の視点

### (1) 研究の視点に焦点をあてた授業研究

#### ①事前研究の討議の柱

○単元及び本時において論理的思考が表現された姿や発言はどのようなものか。

○「言語技術」が活かされた姿とはどのようなものか。

○「書く活動」の目的と活用の場面はどこか。

○ねらいに迫るための有効な切り返しの在り方

#### ②事後研究の討議の柱

○児童の論理的思考力・表現力は育ったか。

○育ったとすれば、何が有効であったか。

○育っていないとすれば、具体的な改善策を提示

#### ③指導案の工夫

○「言語技術」を活かす工夫、書く活動の工夫、児童の反応に対する切り返しを指導案に明記

### (2) 授業検証レポート作成における工夫

①事前・事後の調査による成果の数値化

②「言語技術」を活かす工夫、書く活動の工夫についての検証

③検証をもとに改善した指導案の提示

## 3 研究の成果と課題等

### (1) 論理的思考力・表現力の育成（論理＝論、表現＝表）

①児童の変容（日記・学習感想・アンケートより）

論：聞き取る力・考えを深める力の向上

○自分が考えていることは正しいと思っても、視点を変えて他の人からみると自分とは違う見方があると思った。（6年生）

論：比較して考える（考えを整理する）態度の向上

○算数のとき、自分の考えと似ているところや違うところを比べながら友達の発言を聞いている。（5年生）

論：根拠をもって考えようとする態度の向上

○自分の考えを発表する時、理由をつけて話すように意識している児童が増えた。（資料①3年～6年対象）

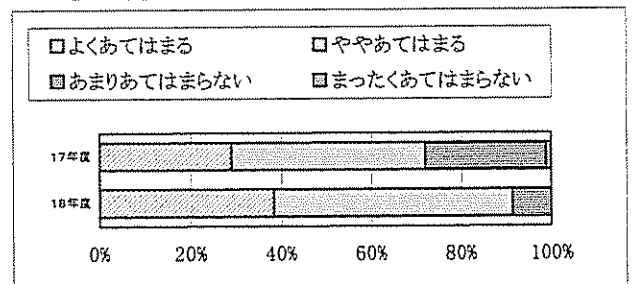
表：考える（話す力・考えを持つ）意欲の向上

○授業中、急に指名されたとき、さっと自分の考えをまとめて言うことができるようになった。これは問答ゲームをして、いつも考えるということをしてきたからだと思う。（6年生）

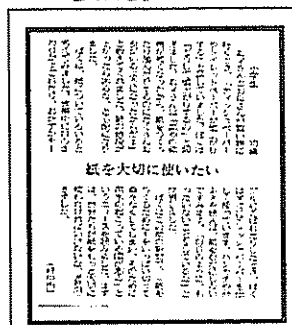
表：積極的な表現活動の増加

○自分の体験をふり返り、言葉や図を使って表現し、積極的に作品応募する児童が出てきた。（資料②）

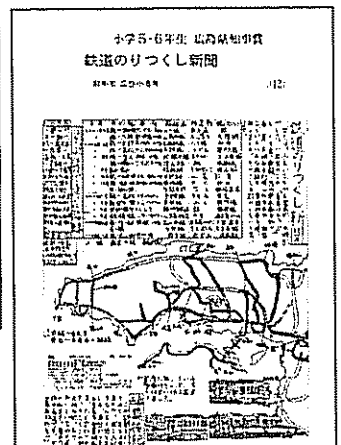
【資料①】理由をつけて話す



【資料②】



【中国新聞8月掲載】



【みんなの新聞コンクール県知事賞】

②教師の変容 (教師アンケートより)

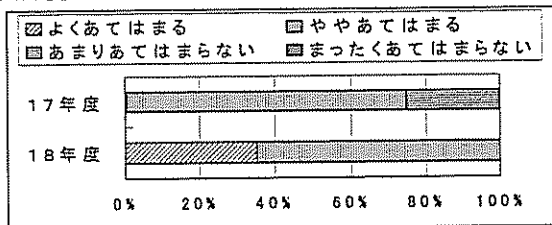
論：ねらいにせまる発問や切り返しを意識している。

(資料③)

論：事実を根拠としてあげるようにしている。(例：どこに書いているか。どの言葉から分かったのか。)

表：相手意識を持ち、整理して話をしている。

【資料③】ねらいに応じた問いかけ



③保護者の声より

表：以前のように「別に〜、知らん」と言わなくなった。

表：子どもが単語でしか言わないときは、察しの悪い親の役になって正しく言わせるようにしている。

④公開研究会参加者の声より

論：教師が「どうして」と問うことで子どもは根拠を持って考えることができていた。

表：発表の苦手な子どもでも発言のパターンが分かれると発言できることが分かった。

表：考えを図や式・言葉で表し、思考を深めるノート指導が学校全体で統一され、徹底されていた。

(2) 課題

①児童は、「言語技術」の型(結論先行・理由をつけてなど)を使用することはできるようになったが、場面や話し相手によって、技術を使い分けるといったところまでには至っていない。

②児童がお互いの発言にかかわって質問したり活発に意見を述べ合ったりして思考を深める授業づくりが課題である。(教師の授業力の向上)

(3) 今後の改善方策等

①「言語技術」を活用し思考を深め表現する授業を創造するための指導力の向上

○全教員による「ことばの時間」(全20時間)カリキュラムの作成

○「言語技術」を活用した授業実践例の持ち寄り研修

②思考を深めるためにかかわり合う授業の創造

○指導案にかかわらせる目的・場面・方法などを明記

○「深める」過程での論点の整理

○活発な討論の土台となる学級の支持的風土づくり

4 実践事例

(1) 第4学年・特設「ことばの時間」

(2) 単元の紹介

① 単元名 「言語技術」【説明】

② 単元の目標：分かりやすい伝え方(グルーピング、一文一義、順序よく)の技術を身に付ける。

③ 単元の展開(指導計画)

・お好み焼き作りの道具と材料を分類する。(1時間)

・お好み焼き作りの手順を短い言葉で順序よく説明する。(1時間)

(3) 指導にあたっての工夫点

①思考力・表現力育成のための「言語技術の活用」

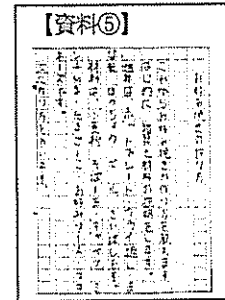
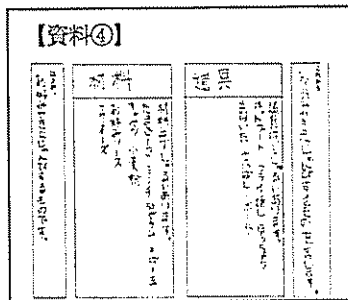
○思考を深めるために、「なぜそのように分類するのか、もっと分かりやすく分類できないか」など切り返しの工夫

○聞き手にわかりやすい表現をさせるために、「問答ゲーム」の話形を活用し、結論先行で理由を付けた簡潔な説明

②思考力・表現力育成のための「書く活動の工夫」

○思考を整理するために、道具と材料に分類できるワークシートの活用(資料④)

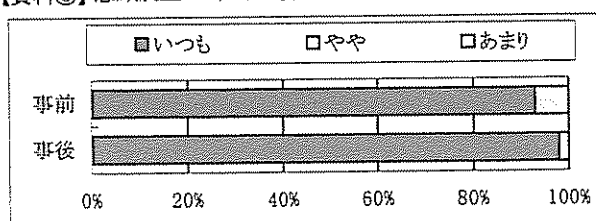
○表現の仕方を定着させるため、授業の終末場面での文章化(資料⑤)



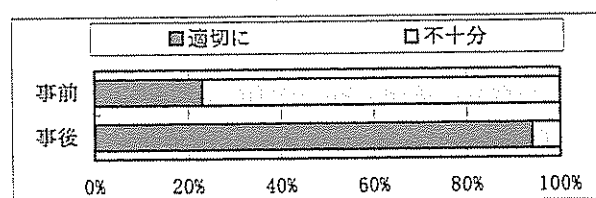
(4) 児童の変容

①事前・事後の比較

【資料⑥】意識調査：相手に分かりやすく話しているか



【資料⑦】実態調査：相手に分かりやすく説明する問題により調査



②児童の学習後の感想より

①説明をするときは、初めに全体のことを言って後から小さいことを言えば相手に分かりやすかった。

②仲間ごとに分けていうと、相手に分かりやすいということが分かった。

③これからは、長い文は相手に分かりにくいので、短い文で説明する。

(5) 成果と課題

①分かりやすい説明をするために大切なことは、相手意識を持つことであるということが児童に意識できた。(資料④)

②説明の基本は「①全体から部分を②情報は分類して③文は簡潔に」が理解できた。

